

令和4年度第1回 岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 会議録

日時	令和4年7月19日（火） 14:00～15:30
会場	こども発達センター 体育館棟 研修室
出席者	岸本美紀、花田直樹、水野智之、鍋田伸郎、外山克之、野崎敬子、平岩ふみよ、内藤智宣、塩谷典子、川原場仁子
欠席者	大賀肇
傍聴人	1名
事務局	保健部 健康増進課長：青山政美 こども部長：鈴木滋幸、こども部 保育課長：大須賀秀樹 こども発達センター長：早川文雄、こども発達医療センター所長：福本由紀子 こども発達支援センター所長：加藤里美 こども発達相談センター：岩城和美、小林広美、林尚子、藤野晋爾、都筑由起子
議題	1. 報告・協議事項 (1) 令和3年度健康増進課の事業（レインボーの会、にこにこきっず1）について（資料1） (2) 早期発達支援システムの課題と見直しについて（資料2） (3) 「発達に心配のある子の早期発達支援システム新評価指標」による令和3年度発達センター業務の評価について（資料3） (4) 令和4年度以降の会議の名称変更について（資料4） (5) 令和4年度事業計画について（資料5） (6) 令和3年度岡崎市こども発達センター事業報告（資料6） 2. 令和4年度の会議開催予定 第2回 令和5年1月17日（火）14:00～
内容	鈴木こども部長 ・ 早川センター長 挨拶 1. 報告・協議事項 (1) 令和3年度健康増進課の事業（レインボーの会、にこにこきっず1）について（資料1） 【健康増進課 青山課長】資料1 説明。 (2) 早期発達支援システムの課題と見直しについて（資料2） 【相談センター 小林】資料2 説明。

【小児科医会 花田】課題1について、レインボーの会の後、保護者の意向が強い場合にはこども発達相談センター（以下「相談センター」と表記）の保健師へつなぐとある。実際の相談は少ないが、かかりつけ医の立ち位置やニーズ、運用について説明してほしい。

【相談センター 小林】かかりつけ医に相談し、解決すればレインボーの会まで待っていただく。それでも心配であれば相談センターへつないでいただき、保健師が相談対応する。保健師との相談後はレインボーの会に戻すが、医療へのニーズが高い場合は、レインボーの会を待たずに医療センターにつなぐことも可能。

【小児科医会 花田】時々2歳まで待てないケースもある。そのような際、相談センターからこども発達医療センター（以下「医療センター」と表記）につなぐことは了解したが、かかりつけ医から医療センターへ紹介してもよいか。

【発達センター 早川センター長】1歳半から2歳まで待つのは、適切な介入時期を逃さないため。医療センターの介入は6か月間で、2歳半から3歳近くで介入するほうが有効であると判断した。かかりつけ医から紹介されすぐに医療センターの介入を開始しても、早すぎる場合がある。まずは相談センターにつなぎ、観察期間を置いて医療センターにつながるのが良いと考える。

【健康増進課 青山課長】補足として、レインボーの会につながらなかったケースの中で、直接医療センターへ受診したのは6名、相談センターへの相談は3名、レインボーの会の後に医療センターを受診したのは5名で、数としては少ない。保健師がフォローしレインボーの会につながらなかったケースは、状況を見てかかりつけ医に相談すると聞いている。

【岡崎私立幼稚園協会 平岩】幼稚園では、障がいのある子も含めて卒園まで計画を作り関わっている。この度、複数の保護者から「9月以降週2、3回午後降園し放課後等デイサービス（以下「放デイ」と表記）を利用したい」と申し出があった。保護者の話では、「放デイから、そのように契約しないと就学後受入れられないと言われた」とのことだった。年少から3年間その子の育ちに合わせ計画を立て援助しているが、卒園まで集大成の時期に週2、3回午後帰宅されるのは子どもたちの成長にプラスにはならないと感じる。預け先が増えることに意見は言えないが、子どもがその場になじんで力を発揮するには時間がかかる。保護者と話す中で、「預かり先がないととても困る」・「宿題を見てくれるところがないと」・「学校から帰宅後、宿題を見られず落ち着けられない。預かり先を絶対に確保しなければ」と強い希望を持っていることも分かった。放デイの運営者は、幼児教育や幼児期の集団をどのように受け止めているのか、子どもをどのように援助しているのか疑問を感じる。個人的な意見ではなく、複数の私立幼稚園で聞かれたため紹介したい。

【発達センター 早川センター長】岡崎市福祉事業団 外山さんへ、幼児教育と放

デイの関係についてコメントをいただきたい。

【福祉事業団 外山】事業団でも放デイを4か所運営している。市内には放デイが60数か所あり、今後も増える見込み。平岩氏の話も把握しており、背景としては、母の就労等で放課後毎日でも預けたいとのニーズが増え、60数か所あっても足りていない。事業団では行っていないが、児童発達支援（以下、「児発」と表記）と放デイ両方を行う多機能型と呼ばれる事業所が複数あり、児発・放デイを合わせて定員10名の流動的な利用が可能。放デイは学校終業後利用するのが決まりのため、児発を13時や14時など早い時間から利用を開始し、放デイの利用者と入れ替わりで16時頃には終了するよう利用を促す状況がある。幼児教育や放デイの質の問題に関わるが、法制度上は認められている。園を休んで児発を利用することが幼児教育として良いか否かではなく、定員を埋めるための事業所都合なら是正されるべきだと思う。法的に間違いでなければ、行政でも放デイ事業所を指導しづらいのではないか。子どもにとってどのような仕組みが良いかは国でも検討されているが、預けたいという保護者のニーズと療育の内容は噛み合っていない。そもそも児発も放デイも療育が目的だが、今は預かりや保護者の就労で利用を希望する保護者が増え、ニーズがなくなることはないと思われる。制度としては併用できるが、原則幼稚園等の時間中はサービスを提供しない等、関係機関で市の実態に合ったルールを検討してもよいのではないか。

【岡崎私立幼稚園協会 平岩】もう1点、みどりのファイルについて。みどりのファイルをうまく使えていない。いっぱい資料がある子ども・全くない子どもがいる。サポートブックと同様に、みどりのファイルの使い方についても研修等をしてもらえると良い。

【発達センター 早川センター長】みどりのファイルは教育関係の情報、児童育成センターはこども部、放デイは障がい福祉課、と部署が分かれ、情報共有は課題である。教育委員会からご意見があれば。

【学校指導課 川原場】みどりのファイルは周知されてきた半面、まだまだ使いにくいとの声がある。「教育支援計画」のとおり、小中学校で主に使うものであるため就学前の子どもには対応しにくい。市の特別支援教育連携協議会では、みどりのファイルをより使いやすくすることを重点課題として取り組んでいる。大雑把ではあるが、サポートブックのような内容やファイルに情報を積み重ね綴じられるもの、就学前から小中学校を卒業後も引継げるようなものを計画している。協議会には福祉部局も入っており、この場で経過等を報告できればと思う。

【発達センター 早川センター長】小学校の担任は子どもが放課後どんなところに参加しているかを知らず、学校の中で完結している。担任が子どもの状況を全人的に把握し、関係機関と情報共有できるのが理想的である。

【歯科医師会 鍋田】1歳半健診と3歳児健診の歯科は、コロナ感染症対策のため集団ではなくなっており、2歳児健診も止まっている。今までは、内科健診と同じ場所で問診票の食べ物の状況等を見て実施していたが、現在はそのような情報がなく個別で来院する。先生ごとに見方が違う場合があり、集団で診ていた状況と少し変わってきていることを承知しておいていただきたい。また先ほど2歳までは様子見でと言われたが、食べるという点では1歳半頃から卒乳が始まり普通食になる。発達に問題がありそうな子どもに対して、食べるという点は2歳まで待ってられない場合がある。コロナが落ち着けば集団健診に戻るかもしれないが、医師等から出るようなデータを、今後歯科医にもうまく共有できる仕組みができると良い。歯科医はサポートブックやみどりのファイルの存在を知らないため、歯科医師会としてもうまくサポートに回れたらよいと思う。

【発達センター 早川センター長】1歳半から2歳まで待つのは、あくまで要観察の子どもが対象、明らかに問題がある子どもは1歳半健診で医療につながる仕組みであることを了承いただきたい。2歳児の歯科健診がなくなったのは大きいですが、コロナが収まれば戻るのか。

【健康増進課 青山課長】一番の原因は会場がないこと。会場があればすぐにでも集団健診を再開したいが、めどが立たない。集団健診再開までの間の健診方法は、引き続き歯科の会議でも検討したい。

(3)「発達に心配のある子の早期発達支援システム新評価指標」による令和3年度発達センター業務の評価について（資料3）

【相談センター 岩城相談係長】：資料3-1説明。

【発達センター 早川センター長】ご意見・ご質問等あれば。

【特定非営利活動法人きらら 野崎】分析でにこにこきっず2を良く評価してもらい嬉しく思っている。資料2の課題3で、令和4年度はにこにこきっず2の対象児が増え、枠が足りなくなる可能性があり利用を月に1, 2回に減らして新規対象児の枠の確保に努めたいとあるが、矛盾しているのではないか。就園準備の役割もあるため、継続してひとりの子どもが利用できるよう配慮してほしい。例えば、げんき館会場は狭く定員が10名だが、げんき館には託児もあり、部屋を仕切らずに使えば利用枠が増やせるのではないか。

【医療センター 福本所長】資料3-2説明。

【小児科医会 花田】初診の待機期間が50日に縮まった点は、他の中核市に比べ素晴らしい。就学前までを対象としていることが要因か。就学後の対応として、医療センターからかかりつけ医に戻されるが、中には重い子どもがおり行き場に困る。関係機関との連携について、詳しく聞きたい。

【医療センター 福本】就学後の対応については、年長で、ほとんどの子どもが医

療センターにいったん戻り、かかりつけ医の他市民病院の外来や、特性に応じて三河病院や三河青い鳥医療療育センター（以下「三河青い鳥」と表記）などにつなぐ。知的に低く初診後すぐに三河青い鳥につないだりドロップアウトするケースを含め、年間の初診数は400人。年度によっては400人を超え、すべての子どもを医療センターで診るのは難しい。少し大変そうだとは思いながらも、かかりつけ医にお願いするケースもある。すぐには崩れないケースを依頼しているが、小学校3・4年生になり崩れることはあると思う。その場合は医療センターに戻していただき、再度振り分ける。

【小児科医会 花田】医療センターから紹介を受けた後、戻すタイミングが難しい。小学校3・4年生になれば、医療センターではなく市民病院に紹介すればよいか。

【医療センター 福本所長】紹介先は流動的で明文化はしていない。医療センターで診られるかは分からず児童精神科が必要なケースもあるが、いったんは医療センターに問い合わせさせていただきたい。市民病院に紹介しても市民病院にはケースの資料がなく、医療センターで確認する。今後は中学生への対応等課題が生じると思う。

【発達センター 早川センター長】三河青い鳥から、ご意見等あれば。

【三河青い鳥医療療育センター 水野】三河青い鳥で20年勤務している。小さい頃に診ていた子どもがいったん終了し、成長して再度受診した際昔のカルテを振り返り今の問題について考えていくことが多々ある。継続的に診ていく意義を感じており、医療センターを終了した後、戻ったときに過去のカルテを振り返りフォローにつなげていくことは大切にしてほしい。

【発達センター 早川センター長】本来医療情報も相談情報もひとりに紐づけることが必要だが、行政的に部署の異なる個人情報紐づけるのは難しい。それぞれの記録を紐づけて探す作業が必要となる。

【三河青い鳥医療療育センター 水野】記録の保存期間はどれくらいか？ 貴重な資料なので残してほしい。

【発達センター 早川センター長】スムーズに記録を取り出せるかどうか。記録の統一化は今後も目指したい。

【支援センター 加藤所長】資料3-3説明。

【発達センター 早川センター長】わかばの受入れ枠が足りないことが課題。

【岡崎市福祉事業団 外山】課題5のわかばの単独通園不足について補足したい。令和5年4月開所予定で、美合町並松に事業団の自主事業で定員10名の単独通所を開設する。地区にちなみ名称は「こども支援センターつむぎ」。単独通園の不足が少しでも補えればよい。今後もニーズに応じ、福祉事業団の自主事業や市と連携し事業を実施していく。

【発達センター 早川センター長】福祉事業団には感謝し、市としても協力してい

	<p>かなければならない。</p> <p>(4) 令和4年度以降の会議の名称変更について (資料4)</p> <p>(5) 令和4年度事業計画について (資料5)</p> <p>【相談センター 岩城】資料4・5説明。</p> <p>(6) 令和3年度岡崎市こども発達センター事業報告 (資料6)</p> <p>【発達センター 早川センター長】できるだけ発達センターの取組みを理解いただけるよう作成したが、お気づきの点があれば相談係へご連絡いただきたい。その他、全体を通して何かあれば。</p> <p>【西三河福祉相談センター 塩谷】西三河児相センターは、養護・育成・障がい・非行の4つの相談を行っている。その中で最も多いのは養護相談で、虐待とその他の養護相談が多く、次に障がいの相談が多い。それぞれ独立しているわけではなく、虐待で関わる親子の中には、発達センターを利用しているケースもある。特性があるがゆえに、子どもが親に自分が伝えたいことをわかってもらえない不全感があり、親もうまく子育てができず自信を失い不安を抱えていることが多い。発達センターが目標を掲げて支援しているのは、このような親子を地域で支えていくうえで大変心強い。今後も関係機関として協力し、地域で親子を見守っていききたい。</p> <p>【岡崎市保育園連絡協議会 内藤】保育の現場では、気になる子どもや発達障がいのある子どもへの対応は、年々変化している。相談センターへの相談ルートが明確になり、現場は心強く手探りではない状況で保育を提供できている。現状で不満や疑問はなく、子どもたちのためにより良い発達支援ができるとよい。</p> <p>【岡崎女子大 岸本】たまたま附属幼稚園の子育て相談で支援センターの心理士が訪問しているのを見かけ、フットワーク軽く訪問してもらえると園も安心して保育ができる。本務は保育者養成であり、微力ではあるが子どもをしっかり理解し、保護者や子どもの目線に立てる保育者を育てていきたい。</p> <p>【発達センター 早川センター長】発達センターの立ち上げにあたり、拠点機能を意識してきた。今後ますます外部に出向き連携を深めていくため、関係機関にはご協力をよろしくお願いしたい。</p> <p>～終了～</p>
事務局 連絡事項	令和4年度第2回会議予定 令和5年1月17日(火) 14:00～